

平成26年度第1回奈良県学校・地域パートナーシップ事業研修会実施報告

- 日時 平成26年5月30日(火) 13:30~15:30
- 会場 橿原考古学研究所 1F 講堂
- 参加者 県内公立小・中学校教職員、学校関係者、市町村教育委員会事務局関係職員、学校・地域パートナーシップ事業関係者等(地域コーディネーター、ボランティア、PTA関係者等) 計137名
- 内容 13:30~13:35 開会
13:40~14:30 講演 「学校教育を支援し、地域の教育力を高める
コーディネーターとボランティア」
青森中央学院大学経営法学部教授 高橋 興
14:30~15:20 ワークショップ「参画へ向けて~楽しく熟議するために~」
(地域の事業関係者 小中学校教職員 中学校教職員 教育委員会事務局職員)
15:20~15:30 まとめ



5 講演概要

① 「地域と共にある学校づくり」の必要性

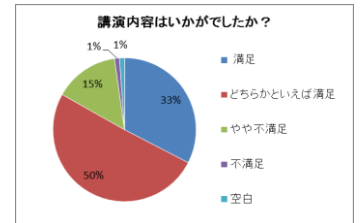
社会の急激な変化の中を生きていく子どもたちは、従来の学力にとらわれない力を身につける必要があり、生活の中で経験知として学んでいく教育が大切になる。だからこそ、教職員だけでは十分ではない部分は保護者・地域がサポートし、教職員以上に経験が多様な地域の人材を活用したい。

また、学校・教職員が果たす役割は増加しており、今までの学校のままでは教職員がもたない。教職員がもたなくなると困るのは、子どもたちである。「地域と共にある学校づくり」を実践している学校は、ボランティアのサポートで教職員が助かることを実感している。だからこそ、地域の支援は必要であり、家庭・地域が、「教育は学校に任せれば大丈夫。」という感覚は捨て、学校・家庭・地域の三者が一体となって「地域と共にある学校づくり」を進めていかななくてはならない。



② 教職員・ボランティア・コーディネーターの役割の確認

ボランティアに積極的に学校に入っただき、教職員は、地域の活動で手伝えそうなことは逆にサポートしていく。ボランティアは、積極的に学校に参画し、つながりを大切に一人でも多くその輪を広げてもらいたい。コーディネーターなくして、この取組の成功はない。取組に興味がある地域の人材を発掘できるのが、コーディネーターであり、ボランティアに活動の意欲を与えることが大切である。

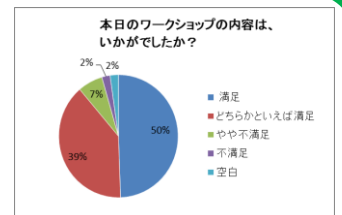


6 ワークショップ(熟議「規範意識の向上を図るために」)での報告

- モデルとなる大人が少なくなっている昨今、各地域ではボランティアで行事を主催したり、子どもたちに我々の姿(子どもたちが将来めざす姿)を見せたりすることによって、子どもたちも何かを感じ得られるものがあるのではないかと。



- 親が子どもからそのような目で見られているという意識を持つこと、子どもが正しいことをした時しっかり褒めることをしていけば、子どもの規範意識が育つのではないかと。



7 感想

- ★ ボランティアが学校に入れば入るほど、子どもの規範意識だけでなく、教職員の規範意識も高まるという結論が出た。(教職員)
- ★ 地域が、少子高齢化を迎えており、一層地域の協力が必要だ。かつての日本の良さを学校地域協働で取り戻すことが、今後の日本を背負う子どもたちを育てるために一番必要ではないだろうか。(ボランティア)
- ★ あっという間に時間が過ぎてしまいました。自分自身が、話の輪を広げ、地域の皆さんと今日のような熟議をできるように取り組みたい。(コーディネーター)
- ★ 違う立場の人と、様々な角度から学校教育を考えることができてよかった。(PTA)

